

令和6年度 地域おこし協力隊実績報告書

地域おこし協力隊 荒井 一樹



(1) 活動概要

鳥獣の捕獲業務や被害・生息調査を通じて、被害の防止および鳥獣被害の発生を抑える里山づくりに取り組んでいる。近年、エゾシカやヒグマの捕獲頭数は増加しているほか、アライグマの捕獲事例も確認されるようになったことを受け、捕獲活動の強化を進めている。さらに、自らハンターの資格を取得し、捕獲業務にも積極的に従事している。

(2) 実施した活動

- ・町内における道路沿いの雑草や藪の刈払い活動（鳥獣対策）
- ・狩猟免許（第一種）、玉掛け技能、小型移動式クレーン技能取得活動
- ・クマ、シカ、アライグマの目撃、捕獲時の対応及び事務
- ・アライグマ電気止めさし、個体処分業務
- ・エゾシカ捕獲実績管理及び毎月の報償費まとめ
- ・ヒグマ捕獲交付金申請及び報償費まとめ
- ・電気牧柵補助金手続き事務
- ・狩猟免許等取得助成金手続き事務
- ・クマ用箱わな設置対応
- ・カラスの巣、雛、卵の駆除対応及び事務
- ・エゾシカライトセンサス調査対応
- ・鳥獣に関する許可申請、交付金申請等の事務
- ・鳥獣に関する雑件(メール、電話)対応
- ・林道などの倒木、刈り払い、洗堀等の確認及び対応



捕獲写真



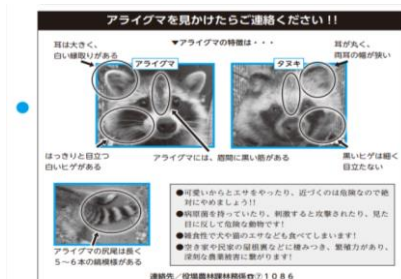
草刈り写真

(3) 成果と課題

【成果】

- ・狩猟免許（第一種）の取得
- ・玉掛け技能、小型移動式クレーン技能取得
- ・町内における道路沿いの雑草や藪の刈払い活動（鳥獣対策）
＜実施エリア：森中学校・森高校・上下水道課エリア、砂原 望洋の森エリア＞
- ・クマ用箱わな設置対応

- ・アライグマ電気止めさし、個体処分業務
- ・広報へアライグマについて周知活動
- ・鳥獣対策の地域おこし協力隊として NHK 取材
- ・地域おこし協力隊 活動報告作成(広報や iroMoriHP へ掲載)



広報にて周知活動



電気止めさし

【課題】

- ・町内における雑草や藪の刈払い活動において、二人体制で2エリアを行い、総作業時間は約計10hとなった。また、1エリアは日程が思うように組めず、半分ほどしか進められず、プラス10h程度は必要だったと考える。また、一人で実施する場合も想定するとさらに作業時間が必要と考える。
- ・狩猟免許（第一種）取得に併せて、銃砲所持許可の手続きも進める予定であったが、申請準備に時間をかけてしまった結果、猟銃に関する法改正も絡み、今年度中の許可は難しく、反省すべき点である。
- ・玉掛け技能、小型移動式クレーン技能を取得したが、クレーン車の運転に必要な免許がなく、ヒグマ用箱わな設置作業の効率面で不都合な場合があると考える。

(4) 次年度への提案

町内における雑草や藪の刈払い活動	昨年度の課題から25h程度の活動時間で計画を立てる。また、新たに実施エリア(河川：森川、尾白内川、澄川、中の川)を追加予定。活動想定時間は40h程度と試算し、総活動時間は65h(10日分)[1日/6.5h計算]で計画を立てる。
アライグマ生息調査及び捕獲活動	トレイルカメラを購入し、町内の河川(上記の活動と連動)を対象に、生息調査および捕獲活動を行う。
ドローン免許取得	ドローンを活用し、野生鳥獣による農業被害調査や追い払いなどに役立てる。また、町有林の実態調査業務などにおいても活用する。
自動車(8t限定)免許取得	現在の「準中型5t限定」免許を限定解除し、「8t限定」へ引き上げることで、公用車(ユニック車)の運転を可能にし、ヒグマ用箱わなの設置対応を円滑にする。

(5) 総括

目標として掲げた狩猟免許（第一種）、玉掛け技能、小型移動式クレーン技能の取得は達成したものの、銃砲所持許可の申請準備に時間をかけすぎた結果、法改正の影響も重なり、今年度中の許可取得が難しくなったことは反省すべき点である。

次に、町内で実施した雑草や藪の刈払い活動では、作業後のエリアにおいてヒグマの出没が確認されず、見通しも良くなったことで、通行者への精神的な安心感にも一定の効果があつたと感じている。この成果を踏まえ、次年度も活動を継続するとともに、対象エリアを拡大し、さらなる鳥獣対策の強化を図りたい。

アライグマに関する活動では、今年度から特定外来生物の防除が本格的に始まり、新たに電気止めさしが導入された。電気止めさしの作業は未経験であり、現時点ではまだ完璧に遂行できるレベルには達していないため、早期習得を目指したい。また、次年度はこれまでの目撃・捕獲情報をもとにトレイルカメラを活用した生息調査を実施し、捕獲圧を高めていく計画である。

さらに、次年度はドローン免許および自動車（8t 限定）免許の取得を目指し、活動の幅を広げていきたいと考えている。